奈良文化財研究所飛鳥資料館開館40周年記念
平成27年度　飛鳥資料館春期特別展「はじまりの御仏（みほとけ）たち」

飛鳥時代は仏教文化が開花し、多くの仏像が造られた時代でした。各地の寺院に伝わる仏像や仏画以外にも、遺跡から出土する金銅仏（こんどうぶつ）・押出仏（おしだしぶつ）・塑像（そぞう）・塼仏（せんぶつ）等があり、それぞれ個性的な御仏のすがたが表されています。

本展覧会では、出土品を中心に飛鳥時代の御仏のすがたを広く紹介します。特に考古学的な観点から、各種の仏像の製作と使われ方、また、寺院における荘厳にも迫ります。魅惑的な「飛鳥の御仏の世界」をご覧いただけましたら幸いです。

（飛鳥資料館　丹羽 崇史）

会　　期：2015年４月24日（金）～６月21日（日）　会期中無休
開 館 時 間：９：00～16：30（入館は16：00まで）
講　演　会：５月９日（土）14：00
　　大脇 潔氏（奈文研名誉研究員・元近畿大学教授）
　　「塼仏学研究最前線―奉献から荘厳・三尊から群像へ―」
ギャラリートーク：４月25日（土）、５月９日（土）、６月14日（日）各日10：30～、14：00～
　　※５月９日は10：30～のみ　研究員が展示を解説します。
ホームページ：http://www.nabunken.go.jp/asuka/　お問合せ：☎0744-54-3561（飛鳥資料館）

平城宮跡資料館 展示紹介「平城宮跡の歴史と保存」

資料館のガイダンスコーナーでは、平城宮跡の歴史や、発掘調査から復原整備への過程を年表と模型で紹介しています。年表は、都の前史からはじまり、奈良時代の主な出来事や、宮跡の研究と保存運動の現代にいたるまでの流れを取り上げています。模型は、平城京から長岡京への「遷都」、平城宮跡の「発掘」、正確な記録を後世に残す「実測」、遺跡公園として活用する「整備」の様子を立体的に示しています。

延暦３年（784）の長岡京への遷都により、宮跡は1,000年以上にわたり田畑となり、華やかな都の面影はなくなりました。しかし、江戸時代末期、古市奉行所（現・奈良市）に勤めた北浦定政により測量がなされ、初めて平城宮・京が学問的に研究されました。近代以降、建築史家の関野貞（せきのただし）らにより研究は進み、地元の植木職人・棚田嘉十郎らの保存活動も契機となり、現在も宮跡の発掘、実測、整備が続いています。

年表や模型から、平城宮・京への先人たちの熱い思いが受け継がれ、平城宮跡がいまこの地に守り伝えられているということを読み取っていただけたら幸いです。

（企画調整部　中村 玲）

開 館 時 間：９:00～16:30（入館は16:00まで、月曜休館）
ホームページ：http://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/　お問合せ：☎0742-30-6753（連携推進課）

■　お知らせ

飛鳥資料館春期特別展
2015年４月24日（金）～６月21日（日）
「はじまりの御仏たち」

■　記　録

文化財担当者研修
○文化財写真課程
2015年１月13日～23日　13名
○出土文字資料調査課程
2015年１月26日～30日　6名
○保存科学Ⅲ（応急処置）課程
2015年２月16日～20日　12名

平城宮跡資料館ミニ展示
（第１期）2014年12月６日(土)～2015年２月１日(日)
「発掘速報展　平城2014」　9,806名

飛鳥資料館冬期企画展
2015年１月16日（土）～３月１日（日）
「飛鳥の考古学2014―縄文・弥生・古墳から飛鳥へ―」
2,658名

現地説明会等
○国宝薬師寺東塔保存修理事業にともなう発掘調査
2015年２月28日　1,599名

■　最近の本

○『長舎と官衙の建物配置　報告編』
『長舎と官衙の建物配置　資料編』
㈱クバプロ　2014年12月

編集　「奈文研ニュース」編集委員会
発行　奈良文化財研究所　http://www.nabunken.go.jp/
Ｅメール　jimu@nabunken.go.jp
発行年月　2015年3月